

---

Fate5D's

天道

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

F a t e 5 D ' s

### 【Nコード】

N 9 6 4 7 X

### 【作者名】

天道

### 【あらすじ】

遊星はゾーンとの戦いの後にアーククレイドルの崩壊に巻き込まれて異次元に飛ばされた。

そして、異世界の聖杯戦争のサーヴァント召喚の儀式を行った遠坂凜の声に心えて英霊として召喚され、凜と共に聖杯戦争に参加する。遊星に待ち受ける新たな運命の戦い、魔術師同士の殺し合いに生き残れるのか！？

**設定（ネタバレあり）（前書き）**

遊星の設定です。

若干ネタバレが含まれているので注意です。

設定（ネタバレあり）

クラス：デュエリスト（決闘者）

マスター：遠坂凜

真名：不動遊星

性別：男性

属性：秩序・善

イメージカラー：赤

特技：ハッキング、プログラム作成

好きなもの：メカいじり、D・ホイール

嫌いなもの：仲間を傷つける者、クズ・ゴミ呼ばわり

天敵：無し

筋力：B

耐久：A

敏捷：B

魔力：E

幸運：A++

宝具：EX

ゾーンとの戦いの後にアーククレイドルの崩壊に巻き込まれて異次元に飛ばされた。

異世界の聖杯戦争のサーヴァント召喚の儀式を行った遠坂凜の声に応えて英雄として召喚され、強制的に凜のサーヴァントとなっている。

聖杯戦争で本来なら全サーヴァントの中で最弱の存在であるが、遊星は全てのサーヴァントと比べても劣らない強力な能力を持っている。

クラス別能力

対魔力：A

神の化身『赤き竜』の加護によって遊星に対するA以下の魔術は全てキャンセル。

ただし、遊星が宝具で召喚した魔物には魔術が通用する。

単独行動：A

遊星は死んではいないので、マスターからの魔力供給が無くても現界できる。

## 保有スキル

カリスマ

絆：E X

遊星が大切にしている人と人の繋がり。

困難な状況、強敵との戦い、それらに対して遊星を中心とした仲間達の絆を一つにすることで、打ち破ることができる。

また、戦いにおける指揮、多くの人を引きつける統率、戦う者の力を高める士気の力が含まれており、最早ギルガメッシュの魔力・呪いを超えた究極のスキルとも言える。

赤き竜の加護：A +

神の化身、赤き竜の加護によって遊星に対するA以下の魔法はキャンセル。

闇の力または世界に干渉する力を、近くに居る人物と一緒に結界で完全に防ぐことができる。

また、遊星が望めば赤き竜の力の一部をその身に宿すことができる。

## 宝具

デュエルディスク

決闘盤

カード  
ランク：E X

絵札に込められた魔物を召喚、又は魔法・罫を発動する事ができる。決闘盤に埋め込まれた10個の宝玉に魔力を注ぎ込むことで立体映

像を現実に実体化する事が出来る。  
魔物を破壊されると遊星の命にダメージを与えられ、ゼロになると命が尽きて死亡する。

ライフポイント

デッキ

ランク：E A++

遊星の決闘者の魂とも言える絵札の束。

魔物、魔法、罫の力が込められており、それぞれの力の強さが異なる。

決闘盤にセットして使うことで真の力を発揮する。

戦法。

決闘盤の基本的な戦い方はスタンディング・デュエル、またはライディング・デュエルに乗っ取った戦い方である。

ただし、ライフポイントは8000で、遊星の召喚した攻撃表示のモンスターが破壊されたときにその攻撃力分のダメージをライフポイントに与え、守備表示で破壊された場合はダメージが発生しない。また、他の魔法や宝具の力によって、遊星やモンスターに何らかの影響を与えて、デュエルに干渉する場合がある。

## 第1話 運命の英霊召喚（前書き）

遂に投稿できました！

F a t e 5 D ' s !

## 第1話 運命の英霊召喚

ネオ童実野シティの未来をかけたゾーンとの戦いに勝利した遊星。

遊星はネオ童実野シティに落下する神の居城『アーク・クレイドル』のモーメントに自らのD・ホイールを衝突させるために向かった。

しかし、ゾーンが身代わりとなり、遊星をモーメントから離すために投げ飛ばした。

「あなたには未来がある。あなたは生きなければならない！」

「ゾーン！ ゾーン！！」

投げ飛ばされた遊星はゾーンの気持ちを無駄にしないために崩壊するアーク・クレイドルから脱出を試みる。

だが……。

「くっ！ うわああああああああっ！！」

アーク・クレイドルの崩壊に巻き込まれ、遊星は異次元に飛ばされてしまう。

何もない無限に広がる異次元に飛ばされた遊星は動くこともできずにいた。

（俺は……このまま死ぬのか？）

その時。

——汝の身は我が下に。

（女の子の声……？）

突然、遊星の頭に高い声が響いた。

——我が命運は汝の剣に。

（誰の声なんだ……？）

すると、遊星とD・ホイールが白い光に包まれていく。

——聖杯の寄るべに従い。

（君が俺を呼んでいるのか……？）

——この意、この理に従うなら応えよ。

（わかった……応えよう……）

そして、遊星とD・ホイールは完全に光に包まれ、異次元から消えた。

そして、ネオ童実野シティとは異なる世界にある冬木市の洋館で黒髪の可愛らしい少女が魔法陣を作り出して呪文を唱えていた。

「抑止の輪より来たれ、天秤の守り手よ——！」

ドオオオオオオン！！！！

「居間の方！？」

少女は今居た部屋を飛び出し、階段を駆け下りて居間のドアを開けた。

「……………はい？」

居間には壊れた家具の上に男が倒れていた。

「ちょ、ちよつと、大丈夫！？」

少女はその男——遊星に駆けよる。

「ねえ、あんた、私の『サーヴァント』でしょ？ 起きなさいってば！」

少女は遊星の体を激しく揺らす、遊星は起きない。

「もう……何なのよおおおおーっ！！」

少女は頭を抱えて叫んだ。

翌朝、遊星は意識を取り戻して目を覚ました。

ベッドに横たわっており、そのままゆっくりと起き上がった。

「ここは……？」

「やっと起きたわね。まったく、世話が焼けるサーヴァントね」

朝食を持ってきた少女がため息顔に言う。

「君は誰だ？」

「私？ 私は遠坂凜。あなたのマスターよ、サーヴァントさん」

「マスター？ サーヴァント？ 一体何のことだ？」

遊星は首を傾げて頭にたくさんの疑問符を浮かべる。

「え……？ まさか、あなた……『聖杯戦争』を知らないの？」

「聖杯戦争……？ それは何の戦いなんだ？」

遊星の返答にガクツとうなだれる凜。

「まさか、サーヴァント相手に聖杯戦争の事を教えなきゃならないなんて……」

とりあえず、遊星はベッドから降りて凜の話聞くことにする。

「いい？ あなたは聖杯戦争のために召喚された私のサーヴァントなの。ちなみに、サーヴァントって言うのは実在した英雄の魂なのよ」

「英雄の魂……？」

（そう言えば、ゾーンが言っていたな。未来で俺が英霊と呼ばれていたと……）

「聖杯戦争には七つのクラスがあるの。セイバー、ライダー、ランサー、バーサーカー、アーチャー、キャンサー、アサシンよ。そして、七つの英霊をこのクラスに振り分けて、私達七人のマスターに召喚されるの」

「七人のマスターに、七人のサーヴァント……」

「そして、マスター同士で争い、最後に生き残った者がどんな願いでも叶えられる聖杯を手に入れられるのよ」

聖杯戦争の大まかな説明を聞き、遊星は取りあえず理解したが、腑に落ちない点がある。

「君、幾つか聞いていいか？」

「ええ、良いわよ」

「今の説明でサーヴァントは英雄の魂、つまり……死んだ人間の魂がマスターに召喚されるんだな？」

「そうよ。それがどうしたの？」

「俺はまだ死んでいないのだが……」

「は？ 死んでいない？ サーヴァントなのに？」

「実は……」

遊星は凜に召喚されるまでの経緯を話した。

「えーと、つまり……あなたの世界の人類が破滅した未来の世界の生き残りである一人の未来人が、未来を救うために破滅の元凶であるあなたの住む街を消滅させようと思いました。それで、あなたは街を救うためにその未来人と戦って勝利。そして、街を消滅させる未来人が出現させた巨大な城の崩壊に巻き込まれて異次元に飛ばされた……って、一体それはどこのSF映画よお！？！？」

遊星の話聞いた凜は叫びながらツツコミを入れる。

「全て偽りのない事実だが？」

「そんでもって、英霊召喚の儀をやっていた私の声に応えて異次元からサーヴァントとして召喚されちゃった……何で応えちゃったのよ、このバカア！！　まだクラスのあるサーヴァントの方が何倍もマシよお！！」

凜は涙目になってポカポカと遊星の胸を叩く。

「そんな事を言われても……」

「もう絶望的よ……これじゃあ聖杯戦争に勝ち抜くことが出来ないわよ……」

凜はその場に座り込んで酷く落ち込んだ。

遊星は腰を下ろして落ち込む凜に話しかける。

「聖杯戦争がどんな戦いかはわからないが、君が勝ち抜く以前に、他の魔術師に命を狙われているんだな？」

「そうよ……死ぬ気は更々無いけど、かなり危ないわよ」

「わかった。それなら、俺は君を守る」

「え？」

「サーヴァントとしてこの世界に召喚されたのなら、俺の力が君に何らかの役に立つはずだ。だから、君を命をかけても守る」

真剣な眼差しで言う遊星に凜の顔は真っ赤に染まる。

「い、良い心掛けね！　じゃあ、私を必ず守るのよ？」

「ああ、約束する」

「ところで……その『君』ってのを止めてくれない？　ちゃんと名前と呼んでくれなきゃ嫌よ」

凜にそう言われ、遊星は一つ頷く。

「わかった、凜」

「それから、聞くのが遅いけどあなたの名前は？」

「俺の名前は不動遊星。遊星と呼んでくれ」

「わかったわ。よろしくね、遊星」

「こちらこそ、凜」

遊星と凜は握手を交わし、新たな絆を結んだ。

マスターの凜と、サーヴァントの遊星。

このタッグが第五次聖杯戦争に大きな影響を与えることになるのだ  
った。

## 第1話 運命の英霊召喚（後書き）

遊星は異次元から召喚されたので、聖杯から聖杯戦争の説明を聞けなかったことにしました。

次回はランサーとのバトルです！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9647x/>

---

Fate5D's

2011年10月27日09時09分発行